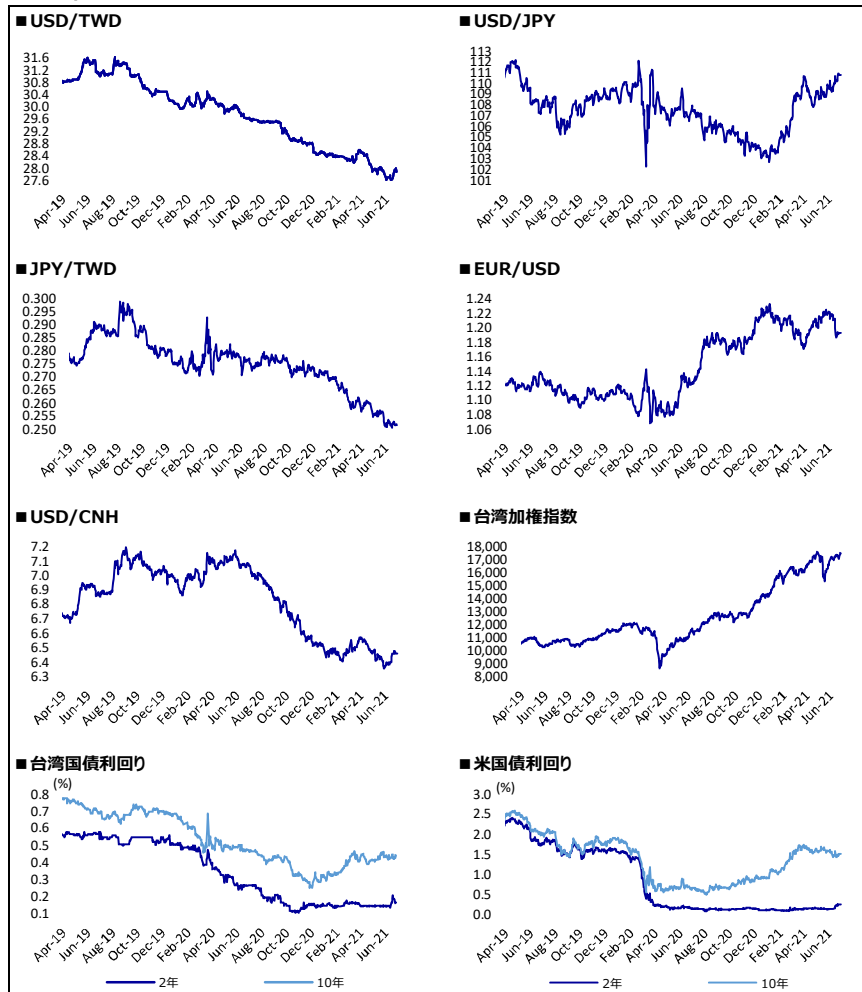


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/21は27.810でオープン後、米国の早期テーパリングへの警戒感からアジア株が軒並み下落する中、台湾株も下落し、外国人投資家の台湾ドル売りから28.00を試す展開に。翌6/22は台湾株の下落は落ち着いたものの、外国人投資家の台湾ドル売り圧力は変わらず、じりじりと上昇。6/23は外国人投資家の前日までの台湾株売りによる台湾ドル売りに加え、生保等の海外への投資も増えたため、一時28.026と約1か月ぶりの水準まで上昇した。6/24は輸出企業のドル売りが上値を抑え、28ちよどを挟んでレンジで推移。6/25は四半期末の月末が近づくと、輸出企業のドル売り圧力が強まり、一時27.850まで下落。その後は調整も入り、最終的には先週比0.4%ドル高台湾ドル安の27.907で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は203.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初6/21は110.18でオープン後、先週末から続く株安を背景にリスク回避の円買いが進み、一時109.72まで下落。しかし、欧州株が反発し、米金利も上昇に転じると、ドル円は110円台に戻した。6/22は110円台前半で推移したが、米株が堅調に推移する中、ドル/円も110円台後半まで続伸。6/23は、前日のパウエルFRB議長の慎重な姿勢を示す発言から利上げ前倒し観測がやや後退し、リスク選好の動きから円が売られて、111円台に。しかし、約1年3か月ぶりの円安水準に、その後は利益確定の動きも入り、110円台後半に戻された。6/24は米金利の上昇を受け、ドル/円も111.11まで上昇したものの、111円台での売り圧力は強く110円台後半でもみ合う展開に。6/25は111円を試すも上値は重く、米5月PCEコアデフレーターが前月比で予想を下回り、過度なインフレ懸念が後退し110円台半ばまで一時下落したが、その後は米金利の上昇につられて110円台後半に戻した。最終的に先週比0.5%ドル高円安の110.79で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.600-27.950
今週は四半期末の月末から輸出企業のドル売りが強まると思われる。しかし、週後半は米国の重要な経済指標の発表も相次ぐ中、米早期利上げ観測からの外国人投資家の台湾ドル売りには引き続き警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.00-111.30
今週は米雇用統計の発表を控えており、様子見相場が続くとみられる。なお、111円台の滞空時間は短く、雇用統計も力強い内容にならない限り、上値は重い展開が続くであろう。

今週の予定

6/28 (MON)	
6/29 (TUE)	米6月消費者信頼感指数
6/30 (WED)	米6月ADP雇用統計
7/1 (THU)	米6月ISM製造業景気指数
7/2 (FRI)	米6月雇用統計、米5月貿易収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。